



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2011 推進ニュース

— 介護ウェーブの “Big Wave” をおこそう! —

新方針「介護ウェーブ2011後半戦の方針」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう!

ケアワーカー研究交流集会、ケアマネジャー研修会を開催!

どうすれば利用者の人権を尊重し介護ができるかを考えるのが介護職の役割だ(山形)

11月27日(日)に、鶴岡市勤労者会館大会議室で、山形民医連「第9回ケアワーカー研究交流集会」を開催しました。県連介護職員育成委員会が主催し、介護職員37名が一堂に会しました。企画は、今年度開催の「第5回ケアワーカー交換実習」の参加報告や、「改正」介護保険法、「民医連の介護・福祉の理念(案)」を学習し日頃のケアをふり返りました。



第5回交換実習には業務経験が3年前後の介護職員が参加し、実習課題を明らかにして習得した成果を職場へ持ち帰りました。病院、短期入所、通所サービス、老健、認知症ケアの各種別での参加者が、他の事業所での取り組みから学んだことを報告し、フロアからの発言も交えて意見交換しました。

学習講演で井田智氏(山形民医連介護福祉部長)は、県連でこの間取り組んだ「民医連の介護・福祉の理念(案)」の全国および各県での取り組みの報告をはじめ、誰もが有する生きる権利や「健康権」を守るための「権利としての社会保障」の実現のために、私たちが担う役割を学びました。また、来年4月の「改正」介護保険法および実施にともなう介護職員の医療行為解禁について解説し、医療行為を認められることよりも、現場での介護職員の使命を果たすための権利を守ることが大切と思われました。講義を聞いて参加者全員で、民医連の介護職員として介護・福祉にどのように携わるか意見を交わしました。討議では、介護職員の医療行為についての意見が多く寄せられ、「介護士本来の利用者(患者)に寄り添った仕事ができなくなるのではないか」、「どうすれば利用者の人権を尊重して介護できるか考えるのが介護職の役割だ」等の意見が出されました。閉会してから生協「こびあ」店舗前にて、介護改善宣伝・署名行動を取り組み、182筆を集めました。

「災害時における利用者の状況の把握やリスクマネジメント」について学習

11月26日(土)に、山形市の山形テルサで、山形民医連「2011年度ケアマネジャー研修会」を開催しました。県連ケアマネジャー委員会が主催し、ケアマネジャー32名が参加しました。テーマは、東日本大震災を教訓として震災体験の交流を図り、「災害時における利用者の状況の把握やリスクマネジメント」について学習し、実践に生かすことです。開催にあたり、(財)宮城厚生協会坂総合クリニックの佐伯由紀子氏(介護保険室課長)より、「東日本大震災における被災地でのケアマネジャーの利用者への対応の報告」をテーマに講演をいただきました。震災発生時の状況および事業所の対応、被災による教訓について、ライフラインの停止、ガソリン供給不足、被害による利用者を送迎できない状況での取り組みをお話いただきました。利用者が被災地に取り残された状況が10日間続くなかで、トリアージへの参加、帰宅困難者のケア、利用者の安否確認のために、半数のケアマネジャーで奮闘されたお話がとても印象的でした。「災害時の対応および民医連ケアマネジャーの役割」をテーマとする参加者のグループ討議では、佐伯課長ならびに、しおかぜ訪問看護ステーションの伊勢淳子所長にも討議にご参加いただき、活発な意見が交わされました。安否確認の訪問先の明確化、利用者への教育と確認などの普段からのセルフケアが大切など、講演で学んだ災害時の対応を生かした意見が多く報告され、今後はふり返りの機会を設けて学びを生かし続けること、民医連職員の支え合いに確信を得たことも報告されました。(山形民医連 介護・福祉NEWS 2011年12月2日より)

運動を大きくしていきたい！県内各地で「介護の日」宣伝・署名行動！（福岡）

11月11日「介護の日」は、県連内の各地で署名宣伝行動が取り组まれました。北九州では、健和会、ライフ北九州から61名の職員が参加し、活気あふれた街頭署名宣伝行動を展開しました。



通行人の反応は、訴えに共感して下さる市民も多かった半面、まだまだ介護の実態や介護保険制度の事が知られていない様子が伺えるやり取りもあり、広く知らせて行く事の必要性を実感しました。久留米では、理事、組合員、職員14名が参加しました。職員の訴えに、「認定制度を見直して欲しい」「親の訪問調査の時に、軽い認定のためとても大変な思いをしました」などの反応がありました。福岡市では福岡医療団、ちどり福祉会、NPO ひまわり、県連事務局から56名が参加しました。参加者からはより良い介護保険制度をつくるためにより広範な人々と力をあわせて運動を大きくしていきたいなどの声がありました。（福岡佐賀民医連 介護ウェブニュース 2011年12月6日より）

「第2回介護活動交流集会」で各事業所の取り組みを交流！（熊本）



熊本民医連とNPO法人みなまた合同の「第2回介護活動交流集会」を11月26日（土）に開催し65名が参加しました。第1部は、2012年「改正」介護保険制度について、藤田事務局長が解説しました。報告を聞いて、利用者は負担増、軽度の方は介護保険が使えず、働く介護職は医行為が拡大する恐れ等、問題点や課題を確認し共有しました。

第2部は、9つの事業所から活動内容や理念の報告がありました。くすのきの通所リハビリは、食事に焦点を当てアンケートを実施しスタッフ間でカンファレンスを持ち、利用者手作りのおやつ料理等、アクティブなチーム医療の形を学びました。在宅ケアセンターくわみずの報告は、「全員集合」のビデオを取り入れ、医療と介護の連携をコミカルにまとめていました。在宅総合ケアセンター協立からは4つの事業所（居宅介護支援、訪問看護、訪問介護、通リハ）から現状と課題が出されました。平和クリニックは、この間、利用者減で苦勞している実情に対し、利用者の紹介を訴える担当者の元気な前向きな発言に励まされます。福祉用具ひまわりからは、住宅改造の実例が出され、介護用品のレンタル業と介護保険外でも住宅改造を受けますとアピールされました。菊陽病院の東3病棟からは15名の集団となった介護福祉士が生き生きと活動している報告を受けました。たくまの里は介護理念に基づいた数々の取り組みと年間行事の中で、入所者のすばらしい笑顔がDVDになり感動的でした。NPOみなまたからは、3つのグループホームと小規模多機能居宅介護を運営する事務局から、現状と低い介護報酬での苦勞話や葛藤等が報告されました。各介護事業所の理念の発表では、八代中央クリニックからは「断らない」をモットーに利用者の件数を伸ばしてきた実績、よやすの家は、新たに介護理念をスタッフから募集し、「住み慣れた地域で、その人らしく」等の理念が発表されました。昨年とくらべどの事業所もDVDやPowerPointを活用し楽しく活動を交流でき、明日からの介護につながっていきます。（熊本民医連 介護ウェブニュースNo. 42 2011年11月30日より）



お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp